

令和 4 年度

「運営に関する計画」

(最終報告)

大阪市立貫江田幼稚園

令和 5 年 3 月

大阪市立貫江田幼稚園 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本園の子どもたちは、ルールやきまり、指示されたことをきちんと守ろうとする姿が多く見られる一方で、自分の思いを伸び伸びと出しながら遊ぶことが苦手な姿が見られる。遊びに興味や関心はあるが、自分で考え試したり工夫したりして存分に自分の力を發揮することや、友達とイメージを共有して、主体的に遊びを進めていくことがまだ難しいという課題がある。
- 友達との関わりにおいて、特に 5 歳児は、友達同士で互いのよさや違いを認め合う姿が増えてはきたが、困ったことや嫌なことをうまく伝えられない姿がまだ多いのが本園の現状と課題である。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新しい生活様式に則って園行事を実施している。こうした状況でも、幼稚園生活が幼児にとって安全で安心できるものとなるように早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的習慣を身につけ、心身ともに健やかに成長できるよう家庭との連携を深めていくことが必要である。家庭でも継続できるような指導方法の工夫が課題である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 保護者アンケート「幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている」の項目について、肯定的回答の割合を 90 %以上にする。
- 保護者アンケート「友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた」の肯定的回答の割合を 90 %以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケート「子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった」の項目について、肯定的回答の割合を 90 %以上にする。
- 保護者アンケート「子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目について、肯定的回答の割合を 90 %以上にする。
- 保護者アンケート「子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった」の項目について、肯定的回答の割合を 90 %以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 保護者アンケート「幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目について、肯定的回答の割合を 90 %以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート「幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている」の項目について、肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。
- 保護者アンケート「友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた」の肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート「子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった」の項目について、肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。
- 保護者アンケート「子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目について、肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。
- 保護者アンケート「子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった」の項目について、肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート「幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」と回答する割合を年度当初より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の幼稚園運営の全体を通して、目標達成に向けた3つの視点において、次の成果が見られた。

● 「安心・安全な教育の推進」について

- ・園内の環境について毎週見直しを行い、安全に過ごすための手立てを工夫するとともに、教師が幼児一人一人の思いを受け止めながら、個別に支援方法を工夫することで、安心して園生活を送る姿が見られた。
- ・友達と一緒に過ごす楽しさを味わうことで、互いに声を掛け合ったり助け合ったりして友達を大切にする姿につながった。

● 「未来を切り拓く学力・体力の向上」について

- ・就学前教育カリキュラムをもとに月案、週案を立案し、活動の前後の振り返りの時間を充実させたことで、子ども同士で互いに協力して遊びをすすめたり、次の見通しを立てながら活動したりする様子が見られた。
- ・毎月子どもの実態に即した保健指導を行ったことで、手洗いの習慣がついたり、健康に過ごすための生活リズムを意識したりするようになり、健康な生活への関心が高まった。

● 「学びを支える教育環境の充実」について

- ・近隣の小中学校の児童・生徒との交流は実現できなかったが、季節ごとに積極的に施設利用をした。
- ・地域との交流は、更生保護女性会による絵本の読み聞かせを実施することができ、保育内容を周知することにつながった。

アンケート結果では、全ての項目で肯定的回答の高い割合を得ることができた。

今年度の成果と課題を受けて、次年度以降も幼児理解に努め、教職員の資質向上と保育内容の充実を図る。

様式 2

大阪市立貫江田幼稚園 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート「幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている」の項目について、肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。 ○保護者アンケート「友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた」の肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 学校安全計画に基づき、安全指導や防災指導を行う。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年 6 回以上、様々な状況を想定した避難訓練を実施する。 学期に 1 回、子どもと教職員で園内の安全点検を実施する。 保護者アンケート「遊具や用具の安全な扱い方を考えて、遊ぶようになってきた」の肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。 	B
取組内容②【2 豊かな心の育成】 互いを認め合う機会を保育に積極的に取り入れ、自己肯定感の向上に努める。	A
指標 月 1 回以上、異年齢交流を計画して取り組む。	
取組内容③【2 豊かな心の育成】 子どもが互いを認め合い一人一人を大切にするクラスづくりをする。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 1 日 1 回以上、友達や教師の話に興味・関心をもって聞いたり話したりする機会をもつ。 学期に 1 回、自分や相手の気持ちに気付けるような題材の視覚的教材を保育に取り入れる。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

学校園の年度目標

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	6月	10月	2月	6月	10月	2月
幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている	100%	100%	100%	84%	86%	93%
友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた	99%	99%	98%	66%	64%	85%

取組内容①

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	6月	10月	2月	6月	10月	2月
遊具や用具の安全な扱い方を考えて、遊ぶようになってきた	95%	99%	100%	58%	64%	79%

- ・4月（火災）、5月（火災）、6月（火災）、9月（地震・火災）、10月（防犯）、12月（火災）、2月（津波）の計7回避難訓練を実施し、教職員一人一人がとるべき行動を考えた。子どもとは、年齢に応じて毎回命の大切さや身を守るための行動を話し合った。6月には福島消防署員に訓練の様子を見てもらい、注意点を指導してもらった。12月には福島警察署による教職員対象の防犯研修を実施した。2月には、津波を想定して鷺洲小学校への避難訓練を実施し、非常時における行動を再確認した。
- ・週案打ち合わせで、安全面について見直しを行うとともに、注意点を子どもと話し合い、園内の点検や危険がないかどうか再確認をした。安全に過ごすためにどうすればよいか子ども自身が考える機会をつくり、5歳児が4歳児にテラスでの過ごし方や職員室での約束を知らせ、子ども同士で気を付けようとする姿が見られた。廊下や保育室内の環境の見直しを図るとともに夏季・冬季休業中に倉庫整理をして、園内の整理整頓に努めている。行事や子どもの様子に合わせて活動場所を広げたり、使う遊具を精選したりしながら保育内容の充実を図っている。
- ・プール遊びが始まる前に教職員でプール事故発生時初期対応訓練、2学期初めに熱中症発生・アレルギー対応における事故発生時初期対応訓練を行い、事故発生時における対応について共通理解を図った。
- ・園外保育では、異年齢ペアになり、5歳児が4歳児に電車内でのマナーや道の歩き方等を教えることで安全に活動することができた。また、園内で遠足ごっこをして階段の昇降時に手を離す、歩道の内側を4歳児が歩く等の約束を再確認することができた。

取組内容②

- ・主な異年齢活動
 - ・4月…園庭で一緒に遊ぶ。
 - ・6月…各クラスのお祭り遊び
 - ・9月…体操
 - ・11月…音楽会
作品展事前鑑賞
親子遠足
 - ・1月…園外保育
・3月…縄跳び
 - ・《1学期》4歳児は5歳児に園内の約束などを教えてもらうことで、決まりを守ろうとするようになった。
 - ・《2学期》運動会や園外保育、作品展などの行事に向けての活動やその後の活動を通して、5歳児は4歳児に知らせたい、見てほしいと思う気持ちや相手を認める気持ちが育った。4歳児は優しく関わってくれる5歳児への憧れの気持ちが育ったことから、未就園児に優しく関わる姿が見られるようになった。
 - ・《3学期》4歳児は、5歳児の劇や合奏を見て刺激となり、生活発表会で大きな声でセリフを言おうとするようになった。5歳児と一緒に縄跳びをすることで、積極的に縄跳びに挑戦する姿が見られるようになった。

取組内容③

- ・4歳児は、降園時に「お知らせタイム」として楽しかったことや嬉しかったことを話す機会をもち、友達に話を聞いてもらう嬉しさやみんなに知らせることの喜びを味わった。

また、マイクを用いることで話したい気持ちが膨らみ、興味をもって友達の話を聞くようになってきている。2学期になり、友達と関わりが多くなってくると、話し合いの中で友達の名前が出たり、友達の発表したことに対し質問が出たりすることが増えた。また、作品展に向けての活動では、友達のつくったものに興味をもつきっかけとなった。

3学期は劇遊びをしていく中で、困っていることや必要な約束について話し合う機会を設けた。教師が中心となって話し合いを進める中で、友達が困っていることを聞き、どうすればよいかをみんなで考えることができた。

- ・5歳児は、1学期から、困ったことや遊びについて子どもたちで考える機会を遊びの中で多くもっている。意見を言いやすい雰囲気をつくるよう心掛けている。2学期も振り返りを毎日行った。友達の話を聞く楽しさや聞いてもらう喜びを感じると共に、友達の思いや考えを知り、受け止め合えるようになった。遊びの中で困っている友達がいると優しく気持ちを聞き、一緒に考えようとする姿が見られるようになった。3学期はこれまでの経験を活かし、子どもたちだけで話し合いを進める姿が見られた。友達の意見を聞いて、どうすればよいか考え合うなど、教師の仲立ちがなくても話し合うことができた。
- ・5歳児、4歳児ともに、「どうして友達が困っているのか」「このようなことをしてしまうと友達はどう感じるのか」「なぜそう思っているのか」など、ホワイトボードや視覚物を活用して、自分の気持ちや相手の気持ちを考える機会をつくった。4歳児は、話し合いやお知らせタイムの中で、具体的に問いかけ、考える機会を多くもったことで、ルールや約束を自分たちで決め、守ろうとする姿につながった。
- ・2学期、5歳児は、運動会に向け様々なチャレンジ遊びを取り入れた。得意なこと以外はなかなか挑戦しない姿があったため、喜びや達成感を味わい、意欲をもって挑戦できるように、チャレンジ表を活用した。誰が何に挑戦し、どれだけできたかが見て分かり、自分自身の達成感だけでなく、友達を励ましたり、友達ができたことを喜んだりと、互いに認め合い意欲を高める姿が見られるようになった。この経験が作品展や生活発表会への取り組みに生かされた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・保護者メールを活用した引き渡し訓練や、地震と火災が同時に発生した際の訓練など様々な想定をした訓練を立案する。
- ・教職員一人一人が非常時に的確な行動をとれるように、訓練内容を検討して意識向上に努める。

取組内容②

- ・子どもの実態に合わせた異年齢交流の内容を検討する。

取組内容③

- ・子どもの実態に即した視覚物の工夫をする。

様式 2

大阪市立貫江田幼稚園 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シートト）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート「子どもは遊びの中において自分で考え自分で行動するようになった」の項目について、肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。 ○保護者アンケート「子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目について、肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。 ○保護者アンケート「子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった」の項目について、肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 友達と思いや考えを出し合いながら、意欲的に遊ぶための環境構成や指導方法を工夫する。	A
指標 · 週 1 回、保育の振り返りを行い、子どもの実態を基に週案を立案し、実践する。 · 保護者アンケート「子どもは、いろいろな経験を通して、意欲的に遊ぶことを楽しんでいる」の肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。	
取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】 様々な絵本やお話を親しむ機会をもつ。	B
指標 · 週 1 回以上、絵本の読み聞かせや絵本貸し出しを行う。 · 園行事に絵本やお話を親しむ機会を取り入れる。 · 保護者アンケート「相手の話を聞こうとする気持ちが育ってきた」の肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。	
取組内容③【5 健やかな体の育成】 子どもの実態を把握し、担任と養護教諭が継続して指導を行い、家庭との連携を図る。	B
指標 · 年 5 回以上、生活習慣調査を実施し、家庭での実態を把握する。 · 子どもの実態・発達に応じた保健指導を月 1 回以上実施する。 · 月 1 回以上保健だよりや掲示物を活用し、保護者啓発を図る。 · 楽しく体を動かす活動の年間計画を立て、実施する。 · 保護者アンケート「子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである」の肯定的回答の割合を年度当初より向上させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

学校園の年度目標

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	6月	10月	2月	6月	10月	2月
子どもは遊びの中において自分で考え自分で行動するようになった	100%	100%	100%	72%	83%	81%
子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった	92%	96%	99%	40%	67%	71%
子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった	97%	94%	100%	73%	59%	75%

取組内容①

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	6月	10月	2月	6月	10月	2月
子どもは、いろいろな経験を通して、意欲的に遊ぶことを楽しんでいる	100%	100%	100%	79%	83%	87%

- ・週1回、子どもの姿を捉えながらクラスの現状や今後の見通しを話し合い、週案を立案して実践した。
- ・4歳児では、入園当初は子どもが安心して園生活を送れるように信頼関係を築いていった。好きな遊びをする中で、自分の思いを出せる場をつくり、友達との関わりにつなげた。2学期、クラス全体での活動だけでなく、少人数のグループでの活動も取り入れたことで、友達との関わりが増えた。思いを出し合う姿が見られるようになってきたが、上手く伝わらず、いざこざも見られるようになり、教師が仲介して互いの思いを伝えて、気持ちを整理できるようにした。クラス全体で考えながら遊んできたことで思いを出し合ったり、助け合ったりする姿が見られるようになった。3学期、日々の活動の中で友達の姿に気付くような声掛けを教師が意識して行うことで、互いのいいところに気付くようになってきた。生活発表会に向けての取り組みでは、劇遊びで自分の思いを出しながら同じ役の友達と役割分担したり、楽器遊びで友達とリズムを合わせて楽器を打ったりして、楽しさや充実感を味わった。子ども一人一人の状況に合わせて、空き部屋を活用して落ち着くスペースをつくったり、教師と一緒に過ごす時間をもったりして気持ちの安定を図ることで、気持ちを切り替えて友達と関わることができるようになった。
- ・5歳児では、思いを出す機会をつくったり、遊びの振り返りを継続して行ったりすることで、自分の考えを出したり友達の考えを受け入れたりしながら遊ぶようになった。夏祭りに向けての遊びでは、クラスごとにしたい遊びを子どもが決め、遊びに必要なものを自分たちでつくったり、ルールを決めたりと、子どもが主体となって考えたり工夫したりできるようにした。友達と思いを出し合っている姿を認めたり、教師も一緒になって考えたりすることで、遊びを通して友達同士で試行錯誤する姿が見られた。2学期、子どもの遊びや興味のあることを捉え、イメージを膨らませながらつくって遊べるようにしてきた。友達と同じ目的をもちながら遊びに必要なものをつくっていた。つくって遊ぶ中で、イメージを共有し、考えを出し合ったり、互いの思いや考えをくみ取ったり、役割分担をしたりしながら遊んでいた。子どもの思いが食い違うことがあったが、その都度クラス全体で考えられるようにしたことで、気持ちを受け止め合い、折り合いをつけて遊べるようになった。友達と考え合っている姿を見守り、必要に応じて声をかけたり、一緒に考えたりすることで、子どもたちは友達と考えや思いを出し合いながら遊びを進めていくことを楽しむようになった。3学期、劇遊びをする中で、友達とイメージを共有しながら、物語を考えたり、内容に沿って台詞を考えてやり取りを楽しんだりしていた。友達と思いを出し合う経験を重ね、友達と認め合える関係ができたことで、主体的にいろいろなことに取り組み、友達と考えを出し合い協力して遊びを進める姿につながった。

取組内容②

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	6月	10月	2月	6月	10月	2月
お子さんは、相手の話を聞こうとする気持ちが育ってきたと思いますか	92%	94%	98%	40%	48%	60%

- ・週1回、絵本の貸し出しを行い、親子で絵本に親しむ機会をつくった。中央図書館の配本絵本も活用した。
- ・毎日、各クラスで絵本の読み聞かせをして、絵本に親しむ機会をもった。5歳児つき組は、『エルマーのぼうけん』に興味をもち、冒険ごっこから作品展、劇遊びにつながった。5歳児そら組は、『わんぱくだん』シリーズに興味をもち、自分たちでわんぱくだんのお話をつくり、劇遊びにして楽しんだ。
- ・毎月の誕生会で、園長が季節や遊び、行事に合った絵本を読んだ。「今日は何の絵本かな」と楽しみにする姿が見られた。また、保護者にも知らせたことで、「子どもとの共通の話題になっている」との話も聞かれた。
- ・6月と11月に図書館読み聞かせボランティアによる絵本の会を実施した。子どもたちは、興味をもって参加していた。4歳児は、『ぽんたのじどうはんぱいき』に興味をもち、生活発表会の劇遊びにつながった。
- ・2月に福島区更生保護女性会による読み聞かせを実施した。
- ・絵本室の蔵書を増やし、子どもたちが興味をもつように整備した。
- ・インフルエンザの流行で、小学校図書室の利用はできなかった。

取組内容③

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	6月	10月	2月	6月	10月	2月
子どもは、体を動かして遊ぶことが好きである	100%	100%	99%	97%	96%	96%

- ・保護者アンケート6回と、きらきらカレンダーで実態把握をした。
- ・月1回以上、保健指導を実施するとともに、習慣化するように視覚物を作成し掲示した。
 (4月…朝の準備、5月…手洗い、足指の体操、6月…熱中症予防、7月…早寝早起き
 8・9月…朝ごはん、靴の正しい履き方、10月…目の愛護デー、11月…噛むこと
 12月…3大栄養素、1月…排便指導、2月…安全指導、3月…1年の振り返り)
- ・保健指導内容を保健だよりに掲載したり、お野菜カードやきらきらカレンダーを発行したりして家庭で実践する機会を設けたことで、保護者啓発とともに家庭での協力を得ることができた。
- ・早寝早起きに関しては、月1回くじら列車週間を設け、21時就寝、9時までの登園を意識づけられるように継続して取り組んだ。
- ・9、10月には視覚的に汚れがわかるような手洗いチェックを行い、日頃から丁寧に手洗いをするよう啓発した。1月は花王株式会社による手洗い教室を開催し、丁寧な手洗いができるよう再確認した。
- ・5歳児は6月、4歳児は12月に箸の持ち方の指導を実施した。全体指導の後、個別指導で箸を正しく使えるように継続して取り組んだ。
- ・保健室来室状況を分析し、2月に安全指導を実施した。けがの発生しやすい場所や行動を見直すことができ、膝の擦過傷は減少傾向にある。
- ・楽しく体を動かす活動については、年間計画に沿って実践している。5歳児が運動会に向けて取り組んだチャレンジ遊びは、運動会後も継続して楽しんでいる。

次年度への改善点

取組内容①

- ・子どもの実態を捉えながら遊びの中で子ども同士が思いや考えを出せるように、見守ったり仲立ちをしたりしていく。また、意欲的に遊びたくなるような環境や働きかけを工夫し、子どもの実態に合わせて日案・週案を立案していく。

取組内容②

- ・今後も保護者にも子どもの姿と共に興味を示した絵本を紹介する。
- ・小学校の図書室を活用する。
- ・図書館読み聞かせボランティアおよび福島区更生保護女性会による絵本の読み聞かせの回数を増やす。

取組内容③

- ・引き続ききらきらカレンダーや生活習慣調査から子どもの実態を把握し、それに応じた保健指導を継続して行う。
- ・丁寧な手洗いが年間を通して継続できるように、学期ごとに計画を立て、取り組みを強化とともに家庭での実践へつなげる。
 - 1 学期…基本的な手洗いについての指導
 - 2 学期…ブラックライトを使用して視覚的に汚れを見せられるような指導
 - 3 学期…花王株式会社による手洗い教室を実施し、再確認する
- ・楽しく体を動かす活動においては、年間計画を立て、目標をもって体を動かせるように指導する。

様式 2

大阪市立貫江田幼稚園 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート「幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」と回答する割合を年度当初より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ICT 機器を保育に生かす研修を行い、教員の資質向上に努める。	B
指標 ・学期に 1 回、就学前教育カリキュラムをもとにした教育課程の見直しをする。 ・年 4 回以上実践記録を取り、子どもの育ちや教育的意図をもった働きかけについて検討する。 ・学期に 1 回以上、ICT 機器に関する研修を行い、保育に生かす。	B
取組内容②【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 幼稚園の取り組みを家庭や地域、他校種に発信し、連携方法を工夫する。	B
指標 ・学期に 1 回以上、他校種と実施方法を工夫して交流し、連携を図る。 ・年 3 回、地域と実施方法を工夫して交流する。 ・クラスだよりや日頃の遊びの様子の写真掲示を通して、家庭に保育内容についての理解を促す。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

学校園の年度目標

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	6月	10月	2月	6月	10月	2月
幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている	91%	96%	95%	54%	59%	57%

取組内容①

- ・長期休業を活用し、保育を振り返ると共に、就学前教育カリキュラムをもとに教育課程を見直している。
- ・1 学期の様子や子どもの育ち、2 学期はキッズフェスティバル（作品展）につながる遊びやその後の遊びの様子や育ちをクラスごとにポートフォリオにした。教師自身が保育を振り返ったり、保護者と育ちを共有したりして、資質向上に努めることができた。
- ・実践記録を年に 6 回取り、協同性の芽生えにつながる姿を捉え、教育的意図をもった働きかけや子どもの育ちなどを教員間で検討しあい、保育の質の向上に努めた。
- ・視聴覚教材（プロジェクター）を活用して、クラスの実態や時期に応じた内容のテレビ番組（『ざわざわ森のがんこちゃん』）を視聴することで、子どもたちの心情に働きかけ、相手の気持ちに共感したり、相手の気持ちを考えたりすることにつながった。
- ・劇遊びや楽器遊びの様子をビデオに録り、子どもたちに見せたことでイメージがわき、やる気を高めるきっかけになった。

取組内容②

- ・6月から、3歳児対象未就園児活動（みみちゃんクラブ実行委員会主催）実施している。未就園児と園児が園庭で一緒に遊んだり、幼稚園のことを教えてあげたり、一緒に体操したりと優しく関わる姿がみられた。
- ・10月から未就園児園庭開放を実施している。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、小学校とは子ども同士の交流はできなかつたが、小学校の施設を活用している。学校の先生と挨拶を交わしたり、小学生が校舎から挨拶や手を振ってくれたりなどし、小学生を身近に感じたり、小学校に親しんだりする機会になった。

6月…中庭で遊ぶ 9, 10月…運動会および練習 10月…避難訓練で2次避難
11月…落ち葉拾い 12月…凧あげ 2月…避難訓練で2次避難

- ・DVD『わくわくスタート』を見たことで、子どもたちは小学校へ進学する期待が高まった。
- ・月1回クラスだより発行、週1回以上ホームページ更新など幼稚園の様子を周知する機会が増えた。
- ・段ボールハウスを地域の方からいただき、遊びに活用した。段ボールハウスに絵をかいたり、切り紙を貼ったりして楽しんだ。
- ・キッズフェスティバルでは、未就園児や貫江田会の方を招待し、作品を見てもらえる機会をもった。
- ・日めくりカレンダーを地域の方にプレゼントをした。
- ・福島区更生保護女性会の方に絵本の読み聞かせをしてもらったり、4歳児の劇遊びを見てもらったりして交流した。

次年度への改善点

取組内容①

- ・遊んでいる写真や動画をもとに子どもたちと保育の振り返りをしたり教職員で討議したりするなど、タブレット端末が活用できるように購入を検討する。

取組内容②

- ・地域の方とは、可能な交流方法を検討し、計画する。
- ・更生保護女性会の絵本の読み聞かせを学期に1回実施する。
- ・近隣小学校との交流方法を検討する。
- ・授業研究会や授業参観に参加し、小学校教育について理解を深める。